

いのち
生命のにぎわいとつながり

No. 77

令和5年3月

樹木の幹や岩、コンクリートなどに生える、「コケ」と呼ばれているものには、蘚苔類（せんたいるい）と地衣類（ちいるい）があります。しかしこの二つは全くの別物で、地衣類は、実は「コケ」という名前がついていてもコケ植物ではないのです。いったいどのような生き物なのでしょう？ 今号では、身近でありながら知られていない、地衣類の不思議な世界に迫ります。

身近な地衣類



ウメノキゴケ

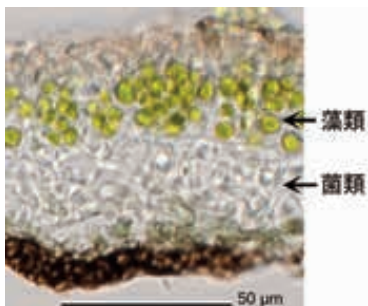
地衣類をご存知でしょうか。地衣類と聞いても、ほとんどの人はどのような生物か想像もできないと思いますが、実は身近な場所で目にすることができます。あなたのご近所で見られるかもしれない地衣類を紹介いたします。

CONTENTS

- 1 身近な地衣類 1
- 2 生命のにぎわい調査団の現地研修会を開催しました 3
- 3 生物多様性に関する市町村職員研修会を開催しました 4
- 4 千葉県の外来種（ハナガメ） 4

◎地衣類

ウメノキゴケのように多くの地衣類の和名には語尾に「コケ」とついています。狭い意味でのコケの蘚苔類(コケ植物)とはまったく別の生物です。蘚苔類は細胞の中に葉緑体を含むことから維管束植物に比較的近い生物です。一方、地衣類の体の中を



マツゲゴケの体(地衣体)の断面

を見てみると、菌類と藻類が見られます。菌類は藻類を乾燥から守ったり、藻類に水やミネラルを提供します。藻類はその水分やミネラルを使って光合成をして、生きていくために必要な栄養(糖アルコール)を作って、菌類に提供します。このように、地衣類は菌類と藻類が共生関係を結んだ複合生物です。

生き物の学名は1つの生物に対して1つ付いています。では、地衣類は菌類と藻類のどちらの学名で呼ばれているのでしょうか。生物の学名をつけるルール(国際藻類・菌類・植物命名規約)では、複合体を構成する菌類の学名で呼んでいます。地球上には地衣類が約2万種いるとされていますが、1600種以上が日本から記録されています。地衣類は現在でも、千葉県からもたくさんの地衣類の新種が発見されていますし、今後も新発見が期待できます。

◎地衣類はどこに行けば見られるの？

コケなのに菌類で、これから新発見が期待できるという、不思議な生物の地衣類はどのようなヘンテコな場所に生育しているのだろうかと思われるかもしれませんが、街中の歩道を歩くだけで多くの地衣類を見つけることができます。実は身近な場所にもたくさんの地衣類が生育しています。



ダイダイゴケ属の仲間が生育する歩道

コンクリートやアスファルトの上にはダイダイゴケ属の仲間が生育しています。コンクリートの上によくある橙色のシミをルーペで観察すると、皿状の構造が確認できます。この皿状の構造がダイダイゴケ属の仲間の体の一部です。

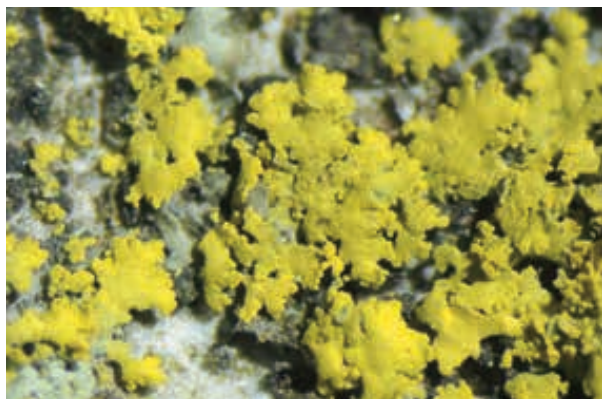


ダイダイゴケ属の仲間の拡大
皿状の構造が確認できる

さらに目線を上に持っていくと、街路樹の上にロウソクゴケ、ナミガタウメノキゴケ、ナミムカデゴケなどを見つけることができます。

◎どのようにして種類を区別するの？

身近に見られる地衣類は色や形から簡単に種類を区別できるものもたくさんあります。ダイダイゴケ属の仲間やロウソクゴケは特徴的な色をしているため、色から簡単に区別できます。ダイダイゴケ属の仲間はその名の通り橙色をしています。街中の街路樹の上で見られる黄色の地衣類はロウソクゴケです。



ロウソクゴケの拡大

ナミガタウメノキゴケが属するウメノキゴケ科とナミムカデゴケが属するムカデゴケ科はほとんど同じ色をしているため、色では区別できません。ウメノキゴケ科とムカデゴケ科は主に形の違いで種類を区別します。肉眼でも分かるような大まかな形と裂芽や粉芽の有無が種類を区別するポイントとなります。

れつが
裂芽…表面にできる、繁殖のための小さな突起
ふんが
粉芽…同じく表面にできる、繁殖のための粉状のもの



ナミガタウメノキゴケ
縁が立ち上がり、波打ち、縁に粉芽をつける



ナミムカデゴケ
縁が立ち上がらず、中央部に丸い粉芽塊をたくさんつける

千葉県立中央博物館では毎年、地衣類の観察会を県内各地で実施しています。観察会では20～40種類の地衣類を観察しながら、種類の見分け方を学びます。地衣類に興味を持たれた方は観察会にご参加いただければと思います。今年の観察会は11月26日（日）開催予定です。

(坂田 歩美 千葉県立中央博物館)

生命のにぎわい調査団の 現地研修会を開催しました 令和4年12月10日（土）

今回の研修会は、県立青葉の森公園で実施しました。これまでの研修会とは異なり、私たちの生活に身近な都市公園で開催するのは初めてです。冬の公園では意外なほど多くの生き物が見られ、身近で安全な場所であることから観察もしやすく、好条件がそろった会場となりました。

メタセコイアとイチヨウは、都市公園を代表する樹木です。これらは、日本の自然環境には生育しませんが、日本人とのかかわりが深く、植物学的に貴重な種です。メタセコイアは日本人が化石で発見したのち、中国で現生種が発見された樹木です。イチヨウも日本人によって精子が発見されたことで、世界的に知られています。



ギンナンを実らせたイチヨウの木（メス）

梅園には多様な品種が植えられています。梅園の樹木の表面には、モジゴケ、ウメノキゴケ、オリーブトリハダゴケなど、見た目もかわいらしく、多様な地衣類が生育していることがわかりました。



公園内の樹木には、種の名前を表記したプレートが括りつけられています。プレートの裏側は、風をよけられることから小動物の越冬場所として利用されています。例年、ヤマモモやトチノキのプレートには、多くのナミテントウが集まりますが、この12月初旬は冷え込みが強くなかったためか、研修会当日には観察できませんでした。



都市公園には必ずある池。この日はカメの研究者から、公園にすむ数種のカメの見分け方について説明を受けました。寒くなってカメたちを見ることはできませんでしたが、春になったら観察できるでしょう。

今回は都市公園を観察場所として、今までの研修会ではあまり取り上げてこなかった生き物を観察することができ、身近な自然の魅力を見つけられたと思います。次の研修会もみなさまのご参加をお待ちしております。

(伊左治 鎮司 千葉県生物多様性センター)

生物多様性に関する市町村職員 研修会を開催しました 令和5年2月10日(金)

生物多様性に関する市町村職員研修会を令和5年2月10日(金)に開催し、生物多様性を担当する多くの市町村職員の皆さまにご参加いただきました。

本研修は、街づくりの主体である市町村職員の方々に、生物多様性への関わりについて理解を深めてもらうことを目的に毎年開催しています。

今年度は、次期生物多様性国家戦略及び生物多様性地域戦略と、外来生物法の改正について研修を行いました。

次期生物多様性国家戦略及び生物多様性地域戦略については、昨年12月にCOP15で新たな世界目標である昆明・モントリオール生物多様性枠組が採択されたことから、それを受けて現在策定作業中である次期生物多様性国家戦略案と、地方公共団体が策定する生物多様性地域戦略について、環境省自然環境計画課生物多様性戦略推進室から御講演いただきました。

外来生物法の改正については、特に令和5年6月1日に条件付特定外来生物に指定される予定であるアカミミガメとアメリカザリガニの規制について、説明を行いました。

(西川 歩美 千葉県生物多様性センター)



千葉県の外来種

ハナガメ



ハナガメ *Mauremys sinensis* は中国南部、台湾、ベトナム北部に生息するイシガメ科イシガメ属のカメで、頭部から首の側面にかけて、黄色い線が複数あるのが特徴です。オスよりもメスのほうがより大きくなり、メスは最大で甲長約28cmまで成長します。腹側の甲羅には各甲板に丸い暗色の斑紋が入っていて、これが花のように見えることが名前の由来とされています。



ハナガメはペットとして人気があり、甲長3cm程度の子亀が安価で大量に販売されていました。しかし、在来種との餌資源や生息場所等の競合、交雑による遺伝子汚染を引き起こすおそれがあることなどから、平成28年に外来生物法で特定外来生物に指定されました。

県内では、これまでに都市部に近い公園の池や河川などで発見されていますが、野外で繁殖した例は報告されていません。しかし、近年ハナガメと日本固有種のニホンイシガメ、ハナガメとクサガメの交雑種が野外で複数確認されています(これらの交雑種も特定外来生物に指定されています)。

確認された個体が野外で繁殖したのか、遺棄されたものかはわかりませんが、交雑種も繁殖能力を持っている可能性があり、生態系への影響が懸念されています。

上記のような問題は、カメだけではなく、様々な生き物で起こる可能性があります。今後同じようなことを引き起こさないためにも、生き物を飼育する場合は、寿命や大きさ、生態などを調べ、よく検討したうえで、最期まで責任を持つことが大切です。

(今津 健志 千葉県生物多様性センター)



生物多様性ちばニュースレター No.77 令和5年3月31日発行

編集・発行 千葉県生物多様性センター(環境生活部自然保護課)

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(千葉県立中央博物館内)

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <https://www.bdcchiba.jp>

